

東日本大震災 ～清真学園の場合～

清真学園高等学校・中学校 教諭 荒川 真司

1. 当日の学校の状況

平成 23 年 3 月 11 日。地震発生時は、平常授業日の 6 時間目の途中でした。高校 3 年生は自由登校期間でしたので、中学 1 年から高校 2 年までの約 800 名の生徒と高校 3 年数名が中庭に避難しました。その後、保護者と連絡を取らせ、自宅の近い徒歩および自転車通学の一部生徒は帰宅させました。その他の生徒は、通学範囲が水戸方面から千葉県内におよぶため、同夜 23 時頃までは安全の確認できた体育館内で、余震が収まってからは会議室等で待機しつつ、保護者の迎えを待ちました。学校周辺の道路は、鹿島神宮駅前以外はそれほど損傷しておりませんでした。結局約 90 名の生徒が学校で一泊し、12 日昼前までには何とか全員帰宅できました。

2. 地震発生時の様子

私は高校 2 年生の地学の授業を担当していました。長い初期微動に不安を感じていると、体験したことのない大きな長周期振動が襲ってきました。初期微動の時に「もっとゆれるようなら机の下に入りなさい」と生徒に指示し、その通りになりました。

ゆれが収まった後、全校に避難指示が出され、レンガ敷き中庭に集合。全員の無事を確認しました。それからまもなく、第二の大きなゆれがあり、本館棟の中庭側（東側）軒天井が音を立てて落下。女子生徒の悲鳴が上がりました。

3. 地震発生後の対応

本校は斜面に建っていることを考慮し、生徒を落ち着かせるためにも、敷地最上部にあるグラウンドにシートとテントを設置することになり、教員と男子高校生で声をかけあって準備を進めました。また、保護者に連絡するための手段である携帯電話は、主に中学校で職員室に預けさせているため、最初の避難時に教員が運びました。

この時点で保護者への連絡を試みさせましたが、当然、なかなかつながりませんでした。結局、直接通話よりもメールのほうが届きやすかったようです。余震の続く中、天候も悪化しはじめましたが、幸い雨風は一時的なもので済みました。

保護者と連絡が取れた生徒のうち、自宅の近い徒歩および自転車通学の一部生徒については帰宅を許可しました。その間に隣接する体育館内の安全を確認して、残った生徒を再度移動させ、毛布を配布。日没後の冷気に対応するため、石油ストーブで暖を取りました。

幸いなことに、校内の停電が一時的だったこと、敷地内の上水道管が長く、浄水を 300L 程度確保できたこと、学校の食堂に備蓄米があったことなどにより、11 日夜と 12 日朝の炊き出しができました。また、近隣に住む保護者からも握り飯の差し入れがあり、たいへん助かりました。

そして、教員を、駐車場で保護者と対応する係、生徒に保護者の到着を連絡する係、生徒の下校をチェックする係、残った生徒に付き添う係などに分け、夜中近くまでその体制を続けました。

その後、ようやく余震も少なくなってきましたので、睡眠の取りやすい場所ということで会議室等へ残った数 10 名の生徒を誘導し、眠れない生徒もありましたが、教員ともども疲れ切った体を休ませました。

ラジオなどから流れる報道は想像を絶する被害の様子を伝えており、生徒の家族が被災したのではと不安になるばかりでしたが、夜が明け、生徒に朝食を取らせてしばらくすると、最後の迎えが到着し、生徒全員が家族と再会できて、心からほっといたしました。

4. 校舎内および敷地内の被害状況

HR 教室のある高校棟および中学棟は、耐震工事のおかげか、過去に増設した継ぎ目部分を中心とする損壊があっただけで、一部立入禁止にただけで済みました。

大きな被害を受けたのは、上記本館棟軒天井とその内側の天井ボード、1 階が吹き抜けになっている美術棟の階段、それに第二体育館ランニングデッキ手摺りの 3 箇所でした。また、美術棟にある天文ドーム内では、大型屈折式望遠鏡が大きく回転し、コンクリート製の台座が破損してしまいました。

地盤のほうでは、埋め立てで作られた野球場で液状化が著しく、埋設された排水管に沿って陥没し、築山法面の一部崩落や地割れも見られました。また後に、野球場に隣接するプール周辺の陥没も明らかになりました。

5. 学校周辺の被害状況

学校敷地の北側を通るバイパス道路はほとんど被害なしでしたが、土地の低い、鹿島神宮駅へつながる道路は液状化による地盤沈下等で、大きく変形破損しました。現在でも補修工事は完了せず、通行止めの坂もあります。駅の南側にある J R 鹿島線の陸橋も被害が大きく、しばらく通行止めになりました。

6. 地震後、学校再開まで

学校の復旧工事だけでなく、水道が止まったことと、生徒の居住地域全体が被災した状況を考慮し、年度内の休校を決定しました。また、3 月 16 日に予定していた高校卒業式も中止となりました。

再開までの間、まずは各家庭に電話で被害状況を確認し、生徒と保護者への励ましを進めました。一部の生徒は、自宅改修の間、地域外の親類宅へ身を寄せたようです。

その後、美術棟階段を除く復旧工事も順調に進み、同時に、交通網も復旧してきたことから、新年度は予定通りの日程でいくことが決まりました。また、卒業した 3 年生の希望により、3 月 31 日に卒業の集いを開催しました。

7. 震災を経験して

未曾有の大災害の中、人的被害を出さなかった幸運に感謝すると同時に、学校と保護者、そして教員間の連携の重要性を改めて確認しました。震災後は、学校安全委員会をあらたに立ち上げ、火災が主だった避難訓練の再考をはじめとして、問題点の洗い出しに努めています。